

校長 萩原哲哉

日暮れがずいぶん早く張りましたね。半袖で汗一杯に走り回っていた頃は、夕方7時頃まで明るい時期もありましたが、今は学校から帰るともう薄暗くなってしまいます。「冬至（とうじ）」と言って、一年で一番昼の時間が短い（＝太陽の出ている時間が短い）日が、今月の21日。そこから先は少しずつ、明るい時間が長くなり、三か月後の3月20日には昼と夜の時間が同じになります。（春分の日）

日暮れすぎに西空に明るく輝く一番星は、木星です。縞模様や大きな目玉模様（「大赤斑」（だいせきはん））と言います。）の星で、ガリレオ衛星という4つの衛星（地球で言うとお月様）が有名です。

さらに空が暗くなると、その木星の左上にも、星が見えます。木星ほど明るくはないですが、空全体から見れば、十分肉眼でも見える星です。これが土星。輪があることで有名な星ですね。

実は今、この二つの星が、さらに近付きつつあります。17日から25日までは一番近付き、見かけ上、お月様の大きさに隠れてしまうほどの距離になります。（17日には、お月様も近くに現れます！）

それぞれの星が、それぞれの速さで太陽の周りを回っているので、これほど近づくことはめったにありません。今回の接近は、なんと397年振り、1623年以来です。当時日本は江戸時代、二代将軍秀忠の時代で、大坂夏の陣（1615年）や島原の乱（1637年）の頃。徳川秀忠や家光、天草時貞なども、夜空を見上げていたのでは、と考えると、何か壮大さを感じます。

次の大接近は60年後。現在4年生の人が70歳、「古希（こき）」と呼ばれる年齢になります。今年見た姿を目に焼き付け、60年後、また思い出とも、すてきですね。